

令和 5 年度
リウマチ月間リウマチ講演会

患者さんに寄り添う専門職医療者を目指して
プログラム・抄録集

日時：令和 5 年 6 月 10 日（土） 会場：都市センターホテル

形式：ハイブリッド開催（会場開催及び Web 配信）

実行委員長：川合 眞一 公益財団法人日本リウマチ財団理事長・東邦大学名誉教授

主催：公益財団法人日本リウマチ財団
後援：厚生労働省
一般社団法人日本リウマチ学会
公益社団法人日本整形外科学会
一般社団法人日本臨床リウマチ学会
公益社団法人日本リハビリテーション医学会
公益社団法人日本医師会
公益社団法人日本薬剤師会
一般社団法人日本病院薬剤師会
全国保健師長会
公益社団法人日本看護協会
公益社団法人日本理学療法士協会
公益社団法人全国病院理学療法協会
一般社団法人日本作業療法士協会
公益社団法人日本介護福祉士会
一般社団法人全国訪問看護事業協会
公益社団法人日本リウマチ友の会



Japan Rheumatism Foundation

公益財団法人

日本リウマチ財団

対象者：一般参加者、患者様とご家族。

医療関係者の方も参加可能です（単位対象外）。

会場開催・ライブ配信期間：

令和5年6月10日（土）12:00～14:10

オンデマンド配信期間：

令和5年6月16日（金）9:00～6月30日（金）17:00

視聴ページ URL：

<https://rheuma2023.net/viewing.html>

実行委員長挨拶



令和5年度リウマチ月間リウマチ講演会実行委員会
実行委員長 **川合 眞一**
公益財団法人日本リウマチ財団理事長・東邦大学名誉教授

本年6月10日（土曜）に開催される令和5年度日本リウマチ財団「リウマチ月間リウマチ講演会」の実行委員長を務めている川合眞一です。私が担当した最近3年間のリウマチ講演会を振り返ると、令和2年（2020年）はコロナ禍のために中止を余儀なくされ、その後、一昨年は全面Web方式、昨年は対面とWebを併せた「ハイブリッド方式」と、段階的にコロナ前の開催形式に近づけてきました。昨年開催された講演会はハイブリッド方式で、ご参加くださった皆さまから好評をいただきましたので、今年度も同じく会場とWebのハイブリッド方式で行うことになりました。

このところ当財団としては、専門職登録制度を介した医療連携による患者支援の充実に力を入れています。そのため、今年度のリウマチ月間リウマチ講演会のメインテーマを「患者さんに寄り添う専門職医療者を目指して」といたしました。例年、リウマチ講演会では、当財団が行う医療者などを対象とした各種顕彰の式典が行われますが、その後に患者さんや一般などを広く対象とした特別講演を行っています。本年度も同様の形式で開催し、これらは講演後もしばらくはWebで視聴できるようにいたします。一方で、医療従事者向けの講演会・研修会も、例年通りに充実した内容で組むことができました。これらも一部は講演後も一定期間視聴できるようにいたします。

リウマチ医療は医師だけでは対応することはできず、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士など、多くのメディカルスタッフに支えられています。日本リウマチ財団はこれら専門職を対象とした登録制度を作り、長年それぞれのエキスパートの育成を支援してきました。今回の講演会も、既に当財団登録専門職とされている皆様を含めた多くの医療従事者に興味を持っていただける内容になったと自負しております。また、ハイブリッド方式は、開催経費が高いというデメリットもありますが、逆に会場まで足を運ばなくても全国どこからでも、一部は後日でも視聴できるというメリットがあります。参加される皆様にはこうしたメリットを存分に利用していただきたいと思っています。

最後になりましたが、本年度のリウマチ講演会が、参加される全ての皆様にとって有意義な会となるために、皆様方の多大なご理解とご協力を賜りたく、ここにお願い申し上げます。

プログラム

患者様とご家族・医療関係者対象

6月10日(土) 第1会場(5階オリオン)

式典・授賞式(12:00～12:40)

式典

会場 **ライブ** **オンデ**

挨拶 日本リウマチ財団 理事長 川合 眞一
来賓祝辞 厚生労働省健康局がん・疾病対策課 課長 西嶋 康浩

授賞式

会場 **ライブ** **オンデ**

ノバルティス・リウマチ医学賞

村上 正晃 北海道大学遺伝子病制御研究所分子神経免疫学分野 教授

塩川美奈子・膠原病研究奨励賞

久保 智史 産業医科大学医学部分子標的治療内科学講座 准教授

日本リウマチ財団リウマチ福祉賞

得丸 敬三 佛教大学保健医療技術学部理学療法学科 准教授

日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰(看護師)

新井由美子 あすまリウマチ・内科クリニック

日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰(薬剤師)

大音師澄子 国家公務員共済組合連合会斗南病院

日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰(作業療法士)

清水 兼悦 札幌山の上病院
がん・リウマチ・神経難病リハビリテーションセンター長
リハビリテーション部長

日本リウマチ財団学術助成等受賞者記念講演

オンデ

リウマチ月間特別講演(12:40～14:10)

会場 **ライブ** **オンデ**

座長 川合 眞一 日本リウマチ財団 理事長

「リウマチ性疾患の原因はどこまで分かっているのか」

山本 一彦 理化学研究所生命医科学研究センター センター長

「医療・介護・ケア～社会保障・福祉制度の概要について」

植竹 日奈 ケ・セラ社会福祉士事務所 主任相談支援専門員

* **会場**会場開催 **ライブ**ライブ配信 **オンデ**オンデマンド配信

リウマチ性疾患の原因はどこまで分かっているのか

理化学研究所生命医科学研究センター センター長

山本 一彦

リウマチ性疾患の多くは多因子疾患と呼ばれており、複数の疾患になりやすい遺伝的変異と発症を促進する環境因子の相互作用により発症すると考えられている。

代表的な関節リウマチ（RA）は、多発性の関節炎を主体とする進行性の炎症性疾患である。関節の中の滑膜とは、普段は関節の中に少量存在する関節液を産生する薄い組織であるが、RA ではそこに炎症が起こり、滑膜細胞が増殖して、次第に周囲の軟骨や骨が侵され、関節の破壊と変形が起こる。さらに、血管炎、皮膚潰瘍、胸膜炎、肺線維症などの関節以外の症状を呈することがある。ゲノムワイド関連解析という多因子疾患の原因遺伝子変異を見つける研究法で解析すると、ここ 10 年以上の成果で、150 以上の遺伝的変異が RA の発症に関与していることが分かってきた。誰もがこの RA になりやすい遺伝的変異のいくつかを持っている。おそらく、これを沢山持っている人はそうでない人に比べて RA になりやすいと考えられる。しかし、なりやすい遺伝的変異を多く持っている人が全員発症するわけではない。おそらく、環境因子として知られている、例えば喫煙による肺内炎症や歯周炎などで蛋白のシトルリン化が起こり、体の中で抗シトルリン化蛋白抗体が産生される。シトルリンはアミノ酸の一種であり、炎症で蛋白をシトルリン化する酵素が誘導されるからである。このような人が、例えばインフルエンザなどのウイルス感染で一過性の関節炎が起こり、関節の中で蛋白のシトルリン化が起きると、関節外に存在していた抗シトルリン化蛋白抗体が関節内のシトルリン化蛋白と反応し、関節炎が持続化するのであろうと考えられている。この場合、その人がもっている RA になりやすい遺伝的変異、喫煙などの環境因子、発症を引き起こす感染などが、すべて原因と考えてよいかもしれない。

全身性エリテマトーデス（SLE）は、細胞の中の核にある蛋白や DNA など比較的限定された自己の成分に対して免疫反応が起き、顔面の蝶形紅斑をはじめ、腎臓、中枢神経、肺、心臓など全身の臓器が侵される疾患である。SLE も 150 程度の疾患になりやすい遺伝的変異が報告されている。おそらく、SLE でもなりやすい遺伝的変異を多く持った人が、女性ホルモンや紫外線暴露などの環境因子の影響をうけると、細胞の核が変化し、体内の免疫組織にさらされるために、抗核抗体と言われる核成分と反応する抗体群が産生され、それが核の抗原と反応することで免疫複合体（＝抗原・抗体が結合したもの）が形成され、それがそれぞれの組織に沈着して臓器病変が引き起こされると考えられている。特に、何らかの引き金（感染、外傷、妊娠、出産など）が加わって疾患が急性発症や急性増悪することがある。これらの引き金も原因と考えられる。さらにインターフェロンと言われる、ウイルス感染で誘導される物質も病態形成に強く関与しているとされている。

このようなことから、現時点では、リウマチ性疾患は上述の種々な要因が複雑に関与しあって発症すると考えられており、原因は一つではないであろうと想定されている。

医療・介護・ケア～社会保障・福祉制度の概要について

ケ・セラ社会福祉士事務所 主任相談支援専門員

植竹 日奈

リウマチ性疾患は長期にわたって日常生活、職業生活の広い範囲にさまざまな影響や障害をもたらします。今回のお話では、病状の変化や過程に沿って、役に立つ制度やサービスなどをご説明していこうと思います。

＜診断～治療の始まり＞ 関節の腫れ、痛みなどを感じて受診し、診断されると最近では比較的早期から生物学的製剤など高額な薬での治療が提案されることがあります。公的医療保険には高額療養費制度があり一定の額（所得により段階があります）以上の医療費負担は求めない仕組みになっています。病状によっては仕事を休んだりする時期もあるかも知れません。国民健康保険以外の公的医療保険では所得補償として傷病手当金という制度があります。なお「悪性関節リウマチ」という診断となれば、難病法による指定難病として特定医療費の制度を使うこともできます。

＜慢性期＞ 初診から原則として1年6ヶ月経った時点で、一定の障害の状態にあれば障害年金を受給できる場合があります。受給にあたっては身体の状態だけでなく保険料の納付についてなどいくつかの要件があります。病状によっては仕事を続けることが大変になったり、やめざるを得なくなる場合もあるかも知れません。療養しながら就労を継続するための支援や再就職を支援する仕組みについてもご紹介します。

＜進行期＞ 病状の悪化に伴い、身体の機能低下が進み、介護が必要になってしまった場合は介護保険や障害者総合支援法による福祉サービスを利用して少しでも快適で自由な生活を送れるよう支援していきたいと思います。介護保険は一般的には65歳以上が対象ですが「関節リウマチ」の診断があれば40歳から利用できます。福祉サービスは年齢制限なく、身体障害者手帳の交付を受けていなくても「関節リウマチ」の診断で利用することができ、（指定難病である「悪性関節リウマチ」でなくてもよい）身体介護、家事援助、就労支援、通所入所施設など幅広いサービスを利用することができます。医療による訪問看護や訪問リハビリテーション、栄養指導、薬剤指導なども利用していきましょう。

＜相談機関や人＞

○病院や診療所の医療ソーシャルワーカー 病状や状況を踏まえて全般的に相談をお受けしています。

○県や市の保健師さんが療養についての相談をお受けできる場合があります。

○難病相談支援センター 指定難病（リウマチ性疾患の場合「悪性関節リウマチ」）を対象とした相談支援センターです。

その他、制度を活用することによってみなさんの生活を少しでも支えられるよう情報提供したいと思います。

受賞者の研究題目・功績

【令和5年度ノバルティス・リウマチ医学賞】

日本国内のリウマチ研究の発展、進歩に大きく寄与する可能性を有する独創的研究に対して贈られる賞です。

村上 正晃 北海道大学遺伝子病制御研究所分子神経免疫学分野 教授

研究題目：IL-6アンプとゲートウェイ反射によるリウマチ性疾患の制御機構の解明

【令和5年度塩川美奈子・膠原病研究奨励賞】

膠原病と闘い、膠原病に苦しみ、薬石効なく亡くなられた故塩川美奈子様ご本人およびご遺族の意向により創設された賞です。

久保 智史 産業医科大学医学部分子標的治療内科学講座 准教授

研究題目：全身性エリテマトーデスの遺伝素因の解明に基づく新規治療標的の創出

【令和5年度日本リウマチ財団リウマチ福祉賞】

リウマチ性疾患に悩む患者の方々に対して、永年に亘る社会的救済活動を通じて、その福祉向上に著しく貢献した方に贈られる賞です。

得丸 敬三 佛教大学保健医療技術学部理学療法学科 准教授

【令和5年度日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰】

リウマチ専門職として、リウマチ性疾患へ対する医療・ケアの向上に大きく貢献した方々を表彰するものです。

看護師

新井由美子 あずまりウマチ・内科クリニック

活動実績：関節リウマチとともに暮らす患者に、変革し続けるリウマチ治療の恩恵を届け、寛解に至らない患者の手も放さずに全人的に支えて守り続ける。このためにおこなったリウマチケア看護師としての看護の実践と普及活動の実績。

薬剤師

大音師澄子 国家公務員共済組合連合会斗南病院

活動実績：リウマチ性疾患における薬薬連携の取り組み

作業療法士

清水 兼悦 札幌山の上病院
がん・リウマチ・神経難病リハビリテーションセンター長
リハビリテーション部長

活動実績：リウマチ性疾患のリハビリテーション
(作業療法、関連する自助具・福祉用具・スプリント・人材育成)

令和5年度リウマチ月間リウマチ講演会

【実行委員会】

- 委員長 川合 眞一（東邦大学 名誉教授）
- 副委員長 富田 哲也（森ノ宮医療大学大学院保健医療学 教授）
- 委員 岡田 正人（聖路加国際病院 Immuno-Rheumatology Center センター長）
幸田 正孝（一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 顧問）
高林克日己（千葉大学 名誉教授）
竹内 勤（慶應義塾大学 名誉教授 / 埼玉医科大学 副学長）
田中 栄（東京大学大学院医学系研究科整形外科学 教授）
仲村 一郎（日本リウマチ財団リウマチ専門職委員会 委員長）
松野 博明（松野リウマチ整形外科 院長）
村澤 章（新潟県立リウマチセンター 名誉院長）

公益財団法人日本リウマチ財団

〒105-0004 東京都港区新橋 5-8-11
新橋エンタービル 11 階
TEL : 03-6452-9030 ・ FAX : 03-6452-9031
E-mail : jrf@rheuma-net.or.jp
URL : <https://www.rheuma-net.or.jp/>